

「A」次の文の（訳）の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 かまへてよくよく宮仕へ、御心に違ふな。（平家物語）

（訳）「」 「しつかりと奉公し、（成親卿の）お心に背くな。

①信頼して ②警戒して ③注意して ④希望して

2 この殿は、おほかた歌のありさま知りたまはぬにこそ。（宇治拾遺物語）

（訳）この殿は、「」 「和歌の有様をご存じで」「」ことである。

①少しもくはない ②ほとんどくはない ③まったくくはない ④思ったとおりにくはない

3 正月一日、言忌みもしあへず。（紫式部日記）

（訳）陰暦正月一日、言忌みも「」。

①最後までしきれない ②まったくできない ③する必要はない ④中断もできない

4 人の泣き騒ぐ音の聞こゆるに、いとゆゆしく、ものもおぼえず。（紫式部日記）

（訳）人の泣き騒ぐ声が聞こえるので、（私は）とても怖くて、「」。

①じっと我慢している ②心配している ③何も言えずにいる ④呆然としている

5 いとしもおぼえぬ人の、おし起こして、せめてもの言ふこそ、いみじうすさまじけれ。（枕草子）

（訳）それほど親しく思われない人が、（眠そうにしている人を）揺り起こして、「」話しかけるのは、とても興ざめだ。

①無理やり ②一生懸命 ③長々と ④こっそりと

6 歌など詠むは世の常なり。かく折にあひたること（漢詩句）なん言ひがたき。（枕草子）

（訳）（こんな時に）歌などを詠むのは「」。このようにその時の状況に合った漢詩句は口にしがたいことだ。

①ありきたりだ ②難しいものだ ③時代の流れだ ④おかしいことだ

7 さての人々は皆臆しがちに鼻白める多かり。（源氏物語）

（訳）「」人々は皆気後れしがちでとまどっている者が多い。

①どうしたことが ②ところで ③そのほかの ④たいていの

8 夢もうつつも、「これはよきこと」と人申せど、させることなくてやむやう侍り。（大鏡）

（訳）夢も現実も、「これはよいこと（の前ぶれだ）」と人は申しても、「」こともなくて終わることがあります。

①気の利いた ②ちょっとした ③何かが起こる ④たいした

「B」次の文の（訳）の「」に入る語句を答えよ。

9 さればよ。思し疑ふことこそありけれ。（落窪物語）

（訳）「」。 （わたしを）お疑いになることがあったのだ。

9 「」

10 おのれが身かずならずして権門の傍らに居る者は、深く喜ぶことあれども、大きに楽しむに能はず。（方丈記）

（訳）自分の身分が「」。て権勢のある家の隣に暮らしている者は、心から喜ぶことがあっても、盛大に楽しむことができない。

10 「」

11 野分のまたの日こそ、いみじうあはれにをかしけれ。（枕草子）

（訳）台風の「」。は、とてもしみじみとした風情がある。

11 「」

12 かくて閉ぢめてむと思ふものから、ただならずながめがちなり。（源氏物語）

（訳）（女は源氏との交際を）このまま終わらせてしまおうと思うけれども、「」もの思いに沈みがちである。

12 「」

解答

【新三年生用】 古文単語330三訂版 P280～P289

- 1 「③」
- 2 「③」
- 3 「①」
- 4 「④」
- 5 「①」
- 6 「①」
- 7 「③」
- 8 「④」
- 9 「思ったとおりだ」
- 10 「取るに足りなく」
- 11 「翌日」
- 12 「心が平静ではなく」